

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 1 区分

【発行日】平成26年11月20日(2014.11.20)

【公開番号】特開2013-92433(P2013-92433A)

【公開日】平成25年5月16日(2013.5.16)

【年通号数】公開・登録公報2013-024

【出願番号】特願2011-234176(P2011-234176)

【国際特許分類】

G 0 1 N 33/48 (2006.01)

G 0 1 N 33/49 (2006.01)

G 0 1 N 21/17 (2006.01)

G 0 1 N 21/64 (2006.01)

【F I】

G 0 1 N 33/48 M

G 0 1 N 33/48 B

G 0 1 N 33/49 H

G 0 1 N 21/17 A

G 0 1 N 21/64 F

【手続補正書】

【提出日】平成26年10月6日(2014.10.6)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

生体試料中の赤血球が溶血され、白血球の核酸が核酸染色性の蛍光色素によって染色された測定試料を調製する工程と、

調製された測定試料に光を照射し、該試料中の粒子から生じる散乱光強度および蛍光強度を測定する工程と、

取得した散乱光強度および蛍光強度に基づいて、前記生体試料中の白血球を少なくとも好中球を含む集団と好酸球を含む集団とに分類する工程と、

前記好中球を含む集団と前記好酸球を含む集団との間に存在する粒子を、活性化好中球として検出する工程と

を含む、活性化好中球の検出方法。

【請求項 2】

前記検出工程において、蛍光強度が前記好中球を含む集団以下であり、且つ散乱光強度が前記好中球を含む集団と前記好酸球を含む集団との間である粒子を前記活性化好中球として検出する請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記好中球を含む集団が、さらに好塩基球を含む請求項 1 または請求項 2 に記載の方法。

【請求項 4】

前記活性化好中球が、細胞質において空胞変性が生じている請求項 1 ～ 3 のいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 5】

前記活性化好中球が、ROS 産生能が亢進している請求項 1 ～ 3 のいずれか 1 項に記載

の方法。

【請求項 6】

前記検出工程において、前記好中球を含む集団と前記好酸球を含む集団との間に存在する粒子を計数する請求項 1 ~ 5 のいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 7】

前記検出工程において、前記計数した値が所定の値よりも大きい場合に、前記粒子を活性化好中球として検出する請求項 6 に記載の方法。

【請求項 8】

前記測定試料中の赤血球が、界面活性剤により溶血されている請求項 1 ~ 7 に記載の方法。

【請求項 9】

前記界面活性剤が、ノニオン性界面活性剤およびカチオン性界面活性剤から選択される少なくとも 1 つである請求項 8 に記載の方法。

【請求項 10】

前記散乱光強度が、側方散乱光強度である請求項 1 ~ 9 のいずれか 1 項に記載の方法。